

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	研究科の設置									
フリガナ設置者	コウリツダイガクホウジン トヤマケンリツダイガク 公立大学法人 富山県立大学									
フリガナ大学の名称	トヤマケンリツダイガクダイガクイン 富山県立大学大学院 (Toyama Prefectural University Graduate School)									
大学本部の位置	富山県射水市黒河5180番地									
大学の目的	富山県立大学大学院では、専攻分野に関する専門的な学術の理論及び応用を教授研究することにより、深遠な学識と高度な研究能力とを兼ね備えた有為な人材を育成するとともに、学術文化の向上と社会の発展に寄与することを目的とする。									
新設学部等の目的	広い視野に立って、看護学の基盤を学修した個々の専門性及び学識を深める教育研究を行い、看護学の発展、様々な形態での看護の実践及び地域社会に貢献できる高度で専門的な人材を育成することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	看護学研究科 [Graduate School of Nursing] 看護学専攻（修士課程） [Master's Program of Nursing] 計	2年	10人	—人	20人	修士（看護学） [Master of Nursing Science]	令和5年4月第1年次	富山県富山市西長江2丁目2番78号		
【基礎となる学部】 看護学部看護学科 14条特例の実施										
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	看護学専攻科設置（令和4年9月届出予定）									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	看護学研究科 看護学専攻（修士課程）	講義	演習	実験・実習	計	30単位 44単位				
		22科目	15科目	3科目	40科目	研究コース 専門看護師コース				
教員	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
				教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新設	看護学研究科 看護学専攻（修士課程）			11人 (13)	11人 (9)	13人 (15)	1人 (1)	36人 (36)	—人 (—)	45人 (45)
	計			11 (13)	11 (9)	13 (15)	1 (1)	36 (36)	— (—)	45 (45)
組織の概要	既設	工学研究科 機械システム工学専攻（博士前期課程）		7 (7)	10 (10)	2 (2)	1 (1)	20 (20)	— (—)	7 (7)
		工学研究科 知能ロボット工学専攻（博士前期課程）		6 (6)	9 (9)	7 (7)	1 (1)	23 (23)	— (—)	6 (6)
	工学研究科 電子・情報工学専攻（博士前期課程）		8 (8)	8 (9)	7 (7)	— (—)	23 (23)	— (—)	6 (6)	
	工学研究科 環境・社会基盤工学専攻（博士前期課程）		4 (4)	9 (9)	4 (4)	0 (0)	17 (17)	— (—)	6 (6)	
	工学研究科 生物・医薬品工学専攻（博士前期課程）		11 (11)	6 (6)	7 (7)	3 (3)	27 (27)	— (—)	7 (7)	
	工学研究科 総合工学専攻（博士後期課程）		36 (36)	41 (41)	5 (5)	— (—)	82 (82)	— (—)	— (—)	
	計		36 (36)	42 (42)	27 (27)	5 (5)	110 (110)	0 (0)	32 (32)	
合計		47 (49)	53 (51)	40 (42)	6 (6)	146 (146)	0 (0)	77 (77)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体 ・図書館専門職員（司書）及び守衛は、委託先から職員を派遣 ・その他の職員は自動車運転手						
	事 務 職 員		54 (54)	0 (0)	54 (54)							
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)							
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	9 (9)	10 (10)							
	そ の 他 の 職 員		2 (2)	0 (0)	2 (2)							
	計		57 (57)	9 (9)	66 (66)							
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	・射水キャンパスの建物(22,912㎡)については、県からの無償貸与(3年毎の自動更新) ・富山キャンパスの土地(11,858㎡)及び建物(14,721㎡)については、県からの無償貸与(3年毎の自動更新)						
	校 舎 敷 地	117,551㎡	— ㎡	— ㎡	117,551㎡							
	運 動 場 用 地	44,450㎡	— ㎡	— ㎡	44,450㎡							
	小 計	162,001㎡	— ㎡	— ㎡	162,001㎡							
	そ の 他	47,869㎡	— ㎡	— ㎡	47,869㎡							
	合 計	209,870㎡	— ㎡	— ㎡	209,870㎡							
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計							
		81,114㎡ (81,114㎡)	- ㎡ (- ㎡)	- ㎡ (- ㎡)	81,114㎡ (81,114㎡)							
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体						
	53室	85室	171室	4室 (補助職員一人)	2室 (補助職員一人)							
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数		看護学部を含む。						
		看護学研究科 看護学専攻(修士課程)		64 室								
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	看護学部を含む。				
		看護学研究科看護学専攻(修士課程)	20,809 [148] (19,309 [108])	175 [20] (142 [10])	43 [20] (33 [10])	420 (350)	12,869 (12,677)		52 (52)			
	計	20,809 [148] (19,309 [108])	175 [20] (142 [10])	43 [20] (33 [10])	420 (350)	12,869 (12,677)	52 (52)					
図書館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体				
	3,457 ㎡		427 席		18.9万冊							
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体				
	1,772 ㎡		フィットネスルーム392㎡ (兼講堂)		テニスコート3面							
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		教員1人当り研究費等		617千円	614千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
		共同研究費等		142,331千円	142,331千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
		図書購入費	617千円	617千円	614千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
	設備購入費	617千円	617千円	614千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次					
		県内	724千円	536千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
		県外	818千円	536千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
	学生納付金以外の維持方法の概要			奨励寄附金、受託研究費、電源立地交付金等の外、不足する分については、富山県の運営交付金を充てる。								

教育課程等の概要														
(看護学研究科看護学専攻)														
科目区分	授業科目（仮称）の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	看護学研究特論	1前	2			○			2	1				オムニバス
	看護倫理特論	1前	2			○			1					兼1 オムニバス
	看護教育特論	1後		2		○			2					兼1 オムニバス
	看護管理特論	1後		2		○			2					兼2 オムニバス
	コンサルテーション特論	1後		2		○			1					兼4 オムニバス・共同（一部）
	看護統計特論	1前		2		○			1	1	1			オムニバス
	看護ケア科学特論	1前	2			○				2				兼2 オムニバス・共同（一部）
	国際看護特論	1後		2		○			1	1				兼2 オムニバス・共同（一部）
	ケアコミュニケーション特論	1前		2		○			1	1	1			兼2 オムニバス・共同（一部）
	富山県の医療保健福祉特論	1前		2		○			1		2			兼2 オムニバス
	臨床薬理学特論	1後		2		○				1				兼1 オムニバス・共同（一部）
	フィジカルアセスメント特論	1後		2		※	○		1	1	1			兼1 オムニバス・共同（一部） ※講義
	病態生理学特論	1前		2		○			1					兼13 オムニバス・共同（一部）
小計（13科目）	—		6	20	0	—			14	8	5	0	0	兼31
看護専門科目	基礎看護学	基礎看護学特論	1前		2		○		1	2				オムニバス・共同（一部）
	基礎看護学特論演習Ⅰ	1後		2			○		1	3				共同
	基礎看護学特論演習Ⅱ	2前		2			○		1	1	2			共同
	成人看護学	成人看護学特論	1前		2		○		4	1				オムニバス・共同（一部）
	成人看護学特論演習Ⅰ	1後		2			○		4	1				オムニバス・共同（一部）
	成人看護学特論演習Ⅱ	2前		2			○		2	1	2			共同
	老年精神看護学	老年精神看護学特論	1前		2		○		3					オムニバス・共同（一部）
	老年精神看護学特論演習Ⅰ	1後		2			○		3	2				オムニバス・共同（一部）
	老年精神看護学特論演習Ⅱ	2前		2			○		1		2			共同
	母子看護学	母子看護学特論	1前		2		○		1	2				オムニバス・共同（一部）
	母子看護学特論演習Ⅰ	1後		2			○		1	3				オムニバス・共同（一部）
	母子看護学特論演習Ⅱ	2前		2			○		1	1	3			共同
	地域在宅看護学	地域在宅看護学特論	1前		2		○		2	1				オムニバス
	地域在宅看護学特論演習Ⅰ	1後		2			○		2	2				共同
	地域在宅看護学特論演習Ⅱ	2前		2			○			1	3	1		共同
小計（15科目）	—		0	30	0	—			27	21	12	1	0	
高度実践看護科目（老年看護）	老年看護学原論	1前		2		○			2	2				オムニバス・共同（一部）
	高齢者アセスメント論	1前		2		○			1	1	1			オムニバス・共同（一部）
	老年医学特論	1前		2		○			1		1			兼6 オムニバス・共同（一部）
	高齢者高度看護実践論	1前		2		○			2	2	1			兼3 オムニバス・共同（一部）
	高齢者ケアシステム論	1前		2		○			1	2				兼3 オムニバス
	高度実践老年看護学演習Ⅰ（慢性期における老年看護）	1後		2			○		1	1	2			兼3 オムニバス・共同（一部）
	高度実践老年看護学演習Ⅱ（認知症老年看護）	1後		2			○		2	1				兼1 オムニバス・共同（一部）
	高度実践老年看護学実習Ⅰ（専門看護師の役割実践）	1後		1			○		2	2	1			共同
	高度実践老年看護学実習Ⅱ（認知症高齢者への看護実践）	2前		6			○		2	2	1			共同
	高度実践老年看護学実習Ⅲ（慢性期における老年看護実践）	2前		3			○		2	2	1			共同
小計（10科目）	—		0	24	0	—			16	15	8	0	0	兼16
研究科目	看護学特別研究（研究コース）	2通	10				○		11	11				
	特定課題研究（専門看護師コース）	2通	6				○		2	2	1			
	小計（2科目）	—	16	0	0	—			13	13	1	0	0	
合計（40科目）		—	22	74	0	—			70	57	26	1	0	兼47

学位又は称号	修士（看護学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係）	
修了要件及び履修方法			授業期間等	
<p>【研究コース】 本研究科に2年以上在籍し、 ①共通科目から8単位（必修8単位）以上、 ②看護専門科目から1分野を選択し、特論2単位及び演習4単位、 ③共通科目及び選択しなかった看護専門科目の特論から6単位以上、 ④看護学特別研究10単位 の合計30単位以上を修得し、修士論文の提出及び論文審査に合格すること。</p> <p>【専門看護師コース】 本研究科に2年以上在籍し、 ①共通科目から16単位（必修6単位、専門看護師コース必修10単位）以上、 ②高度実践看護科目（老年看護）10科目24単位、 ③特定課題研究6単位、 合計46単位以上を修得し、特定課題研究論文の審査に合格すること。</p>			1学年の学期区分	2学期
			1学期の授業期間	15週
			1時限の授業時間	90分

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	看護学研究特論	<p>看護学の発展における研究の意義を理解し、量的研究・質的研究の概要を学び、看護研究を実践するための基礎的能力を養う。研究を進めていくために必要な論理的思考を理解するために、看護実践における研究課題を見出し、課題に対応した研究デザインを選定するなど研究のプロセスを教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6 松井 弘美／6回) 研究疑問を明確にする過程と研究疑問に応じた研究デザインとEBNのレベル、研究における倫理について理解を深める。実態調査・相関研究におけるデータ収集方法、質問紙の作成方法など研究のプロセスを教授する。</p> <p>(11 比嘉 肖江／5回) 質的研究デザインと質的研究におけるデータ収集方法、データ分析方法など、質的研究のプロセスを教授する。</p> <p>(16 浦井 珠恵／4回) 実験研究・準実験研究における厳密性の強化、測定・データ収集方法とデータの質の評価など実験研究・準実験研究のプロセスを教授する。</p>	オムニバス方式
	看護倫理特論	<p>倫理に関する基本的な考え方や医療・看護倫理の歴史の変遷について講義し、看護実践における看護倫理の重要性および倫理教育の課題について考察する。その上で、倫理的行動の基盤となる概念や倫理原則、意思決定モデルについて教授し、臨床現場で生じている倫理的課題や倫理的ジレンマの分析と、その対処行動を探究する。これらの学修を通して、倫理的課題に対する感受性を高め、関係者間での倫理的調整を行うための能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(① 岡本 恵里／11回) 医療・看護倫理の歴史の変遷を踏まえ、看護倫理教育の課題や展望について検討する。また、看護者の倫理的責任、倫理原則、意思決定モデルについて教授した上で、各自が経験した臨床現場で生じている倫理的課題に関する倫理的分析を行う。これらの学修を通して、倫理調整のあり方について自分の考えを持てることを目指す。</p> <p>(42 早川 正祐／4回) 倫理学の基本的な考え方を教授した上で、生命倫理・臨床倫理、ケアの倫理、死（終末期）の倫理の視点から、医療専門職としてのケアや意思決定支援のあり方について考察する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻)			
共通科目	看護教育特論	<p>看護教育の目的、基盤となる学習理論、教育制度や法律、看護専門職として学び続けるために基盤となる概念に関する基礎的な知識を教授する。さらに、看護教育学研究を基盤とした教育方法や教育評価について教授し、看護継続教育において看護職への教育的働きかけ、教育環境づくりができる能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(① 岡本 恵里／6回) 看護職を対象とした研修の成立要件、目的や目標の設定、研修形態の特徴やe-ラーニングなどの教育方法、教育教材について講義する。さらに、教育評価の目的や評価方法・基準について講義する。そのうえで、受講者が計画した研修の模擬講義を通して、教育的働きかけにおける課題を検討する。</p> <p>(③ 田中 いずみ／4回) 看護師のクリニカルラダーを活用した人材育成、看護専門職として学び続けるために基盤となる、アイデンティティ、リフレクションなどの概念について講義する。さらに、キャリアマネジメントの概念、キャリア発達の理論を基に、看護職の教育的支援のあり方について検討する。</p> <p>(43 山下 暢子／5回) 看護教育の目的、基盤となる学習理論、教育制度の歴史や法律、看護継続教育制度の課題について講義する。さらに、エビデンスに基づく教育のための看護教育学研究による研究成果の活用、看護専門職における継続教育の重要性と課題について検討する。</p>	オムニバス方式
	看護管理特論	<p>保健医療福祉分野での看護職として、看護サービスの質の保証と円滑な組織運営を行うために、看護管理の基本となる理論と概念を学び、看護管理の実際について理解を深める。さらに、組織における危機管理、地域における健康危機管理について多角的に考察し、管理能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 佐伯 和子／5回) 組織の理解と管理について、組織構造とコミュニケーション、組織文化、組織風土、組織コミットメントと労働について保健医療看護の分野で活用できる理論と実施について講義する。また、組織におけるキャリア開発の考え方を教授し、それぞれの立場での人材育成について組織論の観点から検討する。</p> <p>(10 城戸口 親史／5回) リスクマネジメントをテーマに、看護組織におけるリスクマネジメント、看護組織における危機管理（災害危機、不測の事態への対応）、医療安全看護管理、感染看護管理、看護における人権擁護について講義を行い、現場の課題を考える。特に、人権擁護については感染管理と連動させ、看護者としての責務と行動を深く探究する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻)			
共通科目	看護管理特論	<p>(44 野村 陽子 / 2回) 日本の看護の動向と政策について、政策の重要性と意義、政策過程を具体例をとおして講義する。看護政策を身近な看護実践と関連するものとしてとらえることができるようにする。</p> <p>(45 高長 雅美 / 3回) 病院組織における看護管理の実際について、組織管理、人事管理、労務管理、病院の組織経営について講義を行う。実践を通しての講義から受講者は自身の所属する組織の課題について考察できるようにする。</p>	
	コンサルテーション特論	<p>コンサルテーションの概念、プロセス、実践モデル、技術、およびコンサルテーションの基盤となる心理学領域の理論について学ぶ。さらに、看護職を含むケア提供者が抱える、複雑で対応困難な問題を抱える患者・家族・組織の問題に関する事例を通して、高度実践看護師としてのコンサルテーションの具体的な展開方法を教授する。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部） / 全15回)</p> <p>(1 佐伯 和子 / 2回) 看護におけるコンサルテーションの目的、ならびに組織へのコンサルテーションについて講義を行い、学生とディスカッションを行う。</p> <p>(41 竹澤 みどり / 4回) コンサルテーションの基本について、歴史、目的、プロセスについて概説し、コンサルテーションの実践に関連して、危機介入、相談援助におけるコンサルテーション、ストレスマネジメントとコンサルテーションについて深く探究する。</p> <p>(47 高山 望 / 1回) CNSとして看護コンサルテーションの4つのモデル、コンサルテーションに影響を及ぼす要因について学び、専門看護師・コンサルタントとしての6つの役割からコンサルテーションについて学生の理解を深める。</p> <p>(46 松井 弘美 / 2回) CNSとしてクライアント中心のコンサルテーション、コンサルティ中心のコンサルテーションについて実践事例を用いて講義を行い、参加者間で討議を行う。</p> <p>(48 利田 智恵 / 2回) 事業に伴うコンサルテーション、地域における多職種連携のコンサルテーションについて実践事例を用いて講義を行い、参加者間で討議を行う。</p> <p>(47 高山 望・46 松井 弘美 / 3回) (共同) コンサルテーションの実践に関して、クライアント中心のコンサルテーション、コンサルティ中心のコンサルテーション、管理的立場でのコンサルテーションの事例を用いてグループ検討を行う。</p> <p>(1 佐伯 和子・47 高山 望 / 1回) (共同) 専門看護師としてのコンサルテーションの役割、およびコンサルテーションの実践における自己の課題についてのプレゼンテーション、ディスカッションを行いコンサルタントとしての自己を探究する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要		
(看護学研究科看護学専攻)		
共通科目	看護統計特論	<p>看護における統計の活用の目的と効果を前提に、統計の基本を理解し、検定と推定について教授する。また、基本的検定方法および多変量解析について理論と実際について教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(④ 越田 美穂子／4回) 看護研究における研究課題と適切な研究方法についての理解の上に、統計を位置づける。統計学の基本として、変数の特性、記述統計（データの要約と分布）についてデータを用いて講義と簡単な演習を取り入れて授業を行う。 また、意見交換を通して、学修したことを確実にする。</p> <p>(⑨ 寺井 孝弘／6回) 多変量解析について、ロジスティック回帰分析、重回帰分析、因子分析について、手法と看護研究での活用について論文クリティークを行いながら教授する。また、基本的な検定方法である2変数および3変数の検定（分散分析、順位和検定、χ^2検定、ノンパラメトリック検定）について理論を説明し、実際の活用をミニ演習事例や研究論文をとおしてクリティークする。</p> <p>(⑩ 大西 竜太／5回) 調査研究デザインから標本と母集団の関係、および推測統計の基礎として推定と検定の理論の説明をし、推定についてはミニ演習を行う。また、基本的な検定方法であるt検定について理論を説明し、実際の活用をミニ演習事例や研究論文をとおしてクリティークする。</p>
		オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要		
(看護学研究科看護学専攻)		
<p>共通科目</p>	<p>看護ケア科学特論</p>	<p>看護ケアにおける実践知・暗黙知を形式知化し、安全・安楽かつ科学的根拠に基づいた看護ケアの発展にむけて探究する能力を養う。そのために、人工知能（AI）を用いた高度情報処理技術、ユビキタスセンサを用いたセンシング技術、人に優しいヒューマンインタフェース技術、仮想現実（VR）・拡張現実（AR）・複合現実（MR）を融合し人の感覚にフィードバックするXR技術の特徴を理解し、それらの技術がどのように社会や医療現場、看護教育現場で活用されているか事例や課題を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（⑥ 林 静子／4回） 看護師の看護ケアにおける暗黙知や臨床判断能力を形式知化し、科学的根拠に基づく看護ケアを探究する。 VR・AR・MR技術など科学技術を活用した、臨床実践能力の向上にむけた看護教育方法を検討する。</p> <p>（20 小林 絵里子／3回） 助産師の助産ケアにおける暗黙知や臨床判断能力を形式知化し、科学的根拠に基づく看護ケアを探究する。</p> <p>（38 鳥山 朋二／2回） 医療現場で活用している医療機器の原理と構造を理解し、センシング技術を用いた安心・安全なケアシステムを探究する。</p> <p>（39 塚越 拓哉／2回） 人の健康状態を常時非侵襲にモニタリングすることが可能なセンサと、そこで用いられているセンシングのしくみを教授する。</p> <p>（⑥ 林 静子・20 小林 絵里子／2回）（共同） 医療現場において科学技術を活用した医療技術がどのように活用されているのか、現状を明らかにし課題を考察する能力を養う。</p> <p>（⑥ 林 静子・20 小林 絵里子・38 鳥山 朋二・39 塚越 拓哉／2回）（共同） 最先端技術の医療現場、看護教育現場での活用方法を検討する。</p>

授 業 科 目 の 概 要		
(看護学研究科看護学専攻)		
共通科目	国際看護特論	<p>国際看護の主要概念（貧困と開発、プライマル・ヘルスケア、人間の安全保障、SDGs、リプロダクティブヘルスなど）を理解し、看護における国の特徴や文化の相違性・共通性・多様性に着目し、世界全体で看護職が取り組む課題を抽出し、文化的視点をを用いた看護援助を行う能力を養う。</p> <p>これらを踏まえ、富山県には多くの外国人が在住していることから、在日外国人への支援の方略を検討し、実践に繋がる文化的感受性の涵養を図る。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>② 張 平平／3回 国際看護の概念と対象、看護における文化の特徴、グローバル社会における国際看護、文化看護の必要性と重要性について教授する。また、国際共同研究の成果から文化の違いを考慮した看護実践を考察する能力を養う。</p> <p>22 清水 暢子／3回 アジアの医療保障制度や地域保健、持続可能な開発目標（SDGs）とヘルスケア、複数の国にわたる看護活動や研究の実際について学修し、自らの研究成果を世界へ情報発信していく能力を養う。</p> <p>50 工藤 里香／4回 青年海外協力隊の活動及び、NGOの活動という国際看護活動の実際、貧困・開発・人間の安全保障、国際的なリプロダクティブヘルスについて教授する。また、世界の母子保健についても地域と文化から母子健康手帳の広がりや役割などについて教える。</p> <p>49 河原 宣子／1回 世界における災害、現場における配慮、看護職としての使命と役割などの国際災害看護について教授する。</p> <p>② 張 平平・22 清水 暢子／4回（共同） 国際看護に関する知見を活かして、国際看護の課題を明らかにし、課題改善策を討議する。</p>
		オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要		
(看護学研究科看護学専攻)		
共通科目	ケアコミュニケーション特論	<p>看護の対象となる人々、特に発達段階や疾病・障がいにより意思や感情を表現することが難しい人々と円滑な人間関係を図るために必要となるケア理論とケア技術について教授する。さらに、ケア技術の標準化、コミュニケーション技術の測定方法と定量化について教授し、看護教育・看護実践への活用について探究する。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(① 岡本 恵里／4回) 看護の対象者に幅広く実施されているコミュニケーション技術の概要を概観し、各技術の効果や課題に関して考察する。また、基礎的・援助的コミュニケーションスキルの構成要素に関して講義し、両者の関連性および援助的コミュニケーションを向上させるための要因について探究するとともに、コミュニケーションケア技術であるユマニチュード®を取り上げ、基本技術(見る・話す・触れる)に関する理論と方法について講義し、ケアの効果と課題について探究する。</p> <p>(⑧ 青柳 寿弥／2回) ユマニチュードの基本技術(立つ) および対象者との信頼関係を形成するための5つのステップの理論と方法に関して講義し、ケアの効果と課題について探究する。</p> <p>(51 本田 美和子／2回) ユマニチュードの歴史、定義、哲学、ケア技術の標準化と教育システムに関して講義し、人としての本質的な価値とは何か、職業人(プロフェッショナル)の要件について探究する。</p> <p>(40 唐山 英明／2回) コミュニケーション技術の測定方法と定量化について講義し、技術の評価基準および量的・質的評価をすることの意義と課題に関して探究する。</p> <p>(① 岡本 恵里・⑧ 青柳 寿弥／3回) (共同) ケア技術(見る・話す・触れ・立つ)の模擬患者に対する演習を通して、録画映像によるケアコミュニケーション技術の分析および自己課題を抽出する。</p> <p>(① 岡本 恵里・⑧ 青柳 寿弥・23 福森 絢子／2回) (共同) ユマニチュードのケア技術を模擬患者に実施した録画映像を用いて、技術の分析および自己課題を抽出する。「ケアコミュニケーションケア技術が人間関係に与える影響」に関するプレゼンテーション・ディスカッションを通して、ケアを職業とする者の役割りと責任について探究する。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻)			
共通科目	富山県の医療保健福祉特論	<p>富山県における保健医療福祉の現状と特徴、またその課題や、地域特性を生かした解決方法について探究する。</p> <p>具体的には、富山県の保健医療福祉について多様な視点からその現状と特色について研究者や現場の専門家からの講義とディスカッションをもとに、その現状と課題について理解を深めると同時に、県の特色や強みを生かした課題解決の方法について、考察し、探究する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(④ 越田 美穂子／5回)</p> <p>富山県の保健政策と保健医療福祉の概要を教授する。授業を通して考察を深めた健康課題についてプレゼンテーションとディスカッションを通じて、富山県の医療保健福祉の現状と課題について理解を深め、課題解決の方法について探究する。</p> <p>(28 高木 園美／2回)</p> <p>富山県の母子保健制度及び医療的ケア児の現状と支援の課題について講義する。また、NPOでのフィールドワークを通じて理解を深める。</p> <p>(36 中堀 伸枝／4回)</p> <p>富山県の成人保健制度及び高齢者保健制度の現状と支援の課題について教授する。</p> <p>(52 守田 万寿夫／2回)</p> <p>医療制度の現状と課題について教授する。</p> <p>(53 河村 瑞穂／2回)</p> <p>富山の福祉政策、福祉制度の現状と課題について教授する。</p>	オムニバス方式
	臨床薬理学特論	<p>薬物が生体に及ぼす作用を研究する薬物作用学と、生体における薬物の動きを研究する薬物動態学の両面からアプローチして、薬の相互作用とそのメカニズムを理解する。さらに、感染症などの急性疾患からがんや循環器病などの生活習慣病をはじめとする慢性疾患における薬物療法を取り上げ、対象疾患に関連した生理・病態生理の知識を活用して使用薬物の作用機序を理解する。これらの学修を、薬物療法に対する看護展開に結びつけて高度な看護実践能力を獲得する。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(54 服部 裕一／12回)</p> <p>ジェネリック医薬品の功罪、服薬マネジメント（妊娠・不眠症治療・緩和ケア・現代精神疾患・高齢者・小児）、分子標的治療薬によるがん化学療法、ワクチン開発と臨床的意義、漢方医学の考え方について教授する。</p> <p>(14 三善 郁代・54 服部 裕一／3回)（共同）</p> <p>臨床薬理学の重要性と看護アプローチの基本、EBMの概念や情報処理の手法について教授する。薬物療法に対する看護アプローチのプレゼンテーションを基に、薬物療法に関する看護展開について討議する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻)			
共通科目	フィジカルアセスメント特論	<p>複雑な健康問題をもつ対象の身体状況について、正確な身体診査の技術と、形態機能および病態の知識を統合して系統的にアセスメントできる知識と技術を教授する。高度看護実践看護師に必要となる、総合的なフィジカルアセスメントに基づいた臨床推論を行い、適切な臨床看護判断ができる能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(55 山城 清二／1回) フィジカルアセスメント総論について講義する。</p> <p>(3 栗子 嘉美・55 山城 清二／4回) (共同) 呼吸器系のフィジカルイグザミネーションと呼吸器の事例をアセスメントし、臨床判断力の知識と実践力を養う。</p> <p>(14 三善 郁代・55 山城清二／4回) (共同) 脳神経系、循環器系のフィジカルイグザミネーションと脳神経、循環器の事例をアセスメントし、臨床判断力の知識と実践力を養う。</p> <p>(27 川口 寛介・55 山城 清二／4回) (共同) 筋・骨格系、腎・泌尿器系呼のフィジカルイグザミネーションと筋・骨格、腎・泌尿器の事例をアセスメントし、臨床判断力の知識と実践力を養う。</p> <p>(3 栗子 嘉美・14 三善 郁代・27 川口 寛介・55 山城 清二／2回) (共同) これまでの学修を基にフィジカルイグザミネーションを行い、患者への的確なフィジカルイグザミネーションによる臨床判断能力を養い、技術を修得する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
共通科目	病態生理学特論	<p>「体液の異常、血行障害、炎症、免疫異常、感染、腫瘍」などの病態の基本、および症状・兆候のメカニズムに共通する現象について教授する。そのうえで「循環、呼吸、消化、内分泌代謝、運動、造血、排泄、生殖、免疫、認知機能」の病態変化について、最新のエビデンスに基づいた徴候、発生機序、病態生理の知識について講義する。これらの学修を踏まえ、各自で提示事例を用いた臨床看護判断を行い、病態生理学的変化を解釈、臨床看護判断を行うため能力を高めることを目指す。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(10 城戸口 親史／1回) 病態生理の理解と臨床看護判断・看護活動との関連について具体的な事例を基に講義し、病態生理学を学修することの意義と、具体的な学修方法について考察する。</p> <p>(56 白田 和生/1回) 基本的な病変（炎症・免疫異常、循環障害、代謝障害、腫瘍）と症状マネジメントについて講義する。</p> <p>(57 丸山 美知郎／1回) 循環機能障害における病態変化と症状マネジメントについて講義する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要		
(看護学研究科看護学専攻)		
共通科目	病態生理学特論	<p>(58 谷口 浩和／1回) 呼吸機能障害における病態変化と症状マネジメントについて講義する。</p> <p>(59 酒井 明人／1回) 消化機能障害における病態変化と症状マネジメントについて講義する。</p> <p>(60 赤堀 弘／1回) 内分泌・代謝機能障害における病態変化と症状マネジメントについて講義する。</p> <p>(61 中村 琢哉／1回) 運動機能障害における病態変化と症状マネジメントについて講義する。</p> <p>(62 近藤 恭夫／1回) 造血機能障害における病態変化と症状マネジメントについて講義する。</p> <p>(63 瀬戸 親／1回) 排泄機能障害における病態変化と症状マネジメントについて講義する。</p> <p>(64 南 里恵／1回) 生殖機能障害における病態変化と症状マネジメントについて講義する。</p> <p>(65 野原 茂／1回) 認知機能障害における病態変化と症状マネジメントについて講義する。</p> <p>(66 藤永 洋／1回) 防衛機能障害における病態変化と症状マネジメントについて講義する。</p> <p>(67 越田 嘉尚／1回) 多臓器不全症候群（MODS）における病態変化と症状マネジメントについて講義する。</p> <p>(68 松倉 早知子／1回) 臨床事例に基づき、状態が急激に悪化して生命の危機が迫る状態にある患者の看護アセスメントに、病態生理学的な視点を活用していく方法を講義する。</p> <p>(10 城戸口 親史・68 松倉 早知子／1回)（共同） 病態生理学の知識を活用して臨床事例の健康課題を抽出する。その判断根拠のプレゼンテーションを基に、自身の臨床看護判断の課題について考察する。</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科看護学専攻)				
看護専門科目	基礎看護学	基礎看護学特論	<p>専門職としての質を高めるために重要となる看護卒後教育・看護継続教育のプログラムや運用の実際について教授し、専門職の特徴や役割りについて考察する。そのうえで、エビデンスに基づく看護実践の概念や要素について教授し、看護倫理を基盤とした対象者の尊厳を守り、かつ自立・自律を支援するための看護実践・看護学教育の課題を探究する。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(① 岡本 恵里／6回) 看護卒後教育・看護継続教育制度のプログラムや運用の実際について教授し、教育方法や教育評価に関する研究成果を基に、現状と課題を整理する。</p> <p>(⑥ 林 静子／3回) エビデンスに基づく看護実践の定義や歴史的経緯、エビデンスの活用方法に関する具体例や普及するための課題について教授する。また、視線計測による看護援助・技術の分析を通して、看護実践に活用できるエビデンスを示していくことの意義について探究する。</p> <p>(14 三善 郁代／2回) 看護援助に用いるノンクリティカル機材の衛生管理、感染防止に関する病院内教育・研修の実際について教授し、看護実践にエビデンスを活用することの意義と課題について探究する。</p> <p>(⑥ 林 静子・14 三善 郁代／2回) (共同) 根拠あるケアを導く5つのステップおよびPICO (PECO)の考え方について教授し、看護援助・技術の研究論文を用いて分析する。</p> <p>(① 岡本 恵里・⑥ 林 静子・14 三善 郁代／2回) (共同) 「看護の専門職性、看護実践能力を高めるための課題」をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを通して、質の高い看護実践・看護学教育の課題を探究する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
		基礎看護学特論演習 I	<p>臨床で実践されている看護援助・看護技術のエビデンスおよび看護継続教育の制度や教育方法・教育評価に関する最新の研究動向を捉え、研究方法と研究課題について探究する。</p> <p>具体的には、国内外の関連論文の抄読とディスカッション、プレゼンテーションにより、研究の理論的基盤、学術用語、研究方法、研究内容等について探究する。</p> <p>(共同／全15回) (① 岡本 恵里・⑥ 林 静子・14 三善 郁代・16 浦井 珠恵)</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科看護学専攻)				
看護専門科目	基礎看護学	基礎看護学特論演習Ⅱ	<p>基礎看護学特論での学び、基礎看護学特論演習Ⅰで探究した課題の中から興味・関心のあるテーマを絞り込み、演習計画に基づいた準実験や調査により客観的データや実態を把握し考察する。このプロセスを通して、看護の質向上を目指して課題に取り組む基礎的な能力を修得する。</p> <p>(共同／全15回) (① 岡本 恵里・⑥ 林 静子・24 山本 麻理奈・25 鷲塚 寛子)</p>	共同
	成人看護学	成人看護学特論	<p>健康障害を持ちながら生活する人々の健康レベルに対応した質の高い看護を提供するために、根拠に基づいた臨床判断・意思決定・看護介入及びその評価を可能にする理論的知識と技術を教授する。また、人々の健康を維持・増進するための看護援助の在り方を探究する。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(4 片田 裕子／7回) 成人看護学に関連する理論の中で慢性疾患を持つ患者と家族にどのように適用するか国内外の研究動向を踏まえ、教授する。またセルフケアを支える継続的支援、患者の意思決定について探究する。</p> <p>(3 栗子 嘉美／4回) 成人看護学に関連する理論の中で急性期にある患者と家族にどのように適用するか健康行動を高める援助方法を踏まえ、教授する。またクリティカルケアについて探究する。</p> <p>(11 比嘉 肖江／1回) 成人期の死の受容における看護について教授する。また看護の実際について探究する。</p> <p>(10 城戸口 親史／1回) 救命救急における看護についてベナーの看護論を中心に教授する。また看護師の役割について探究する。</p> <p>(15 河相 てる美／1回) 成人期の障害受容の看護に関してヘルス・ビリーフ・モデルを用い教授する。</p> <p>(4 片田 裕子・3 栗子 嘉美・11 比嘉 肖江・10 城戸口 親史・15 河相 てる美／1回) (共同) 自己の関心や気づき、考えをプレゼンテーションを通して明確化する。自身の研究課題解決について探究する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科看護学専攻)				
看護専門科目	成人看護学	成人看護学特論演習Ⅰ	<p>成人看護学領域における国内外の文献をゼミ形式で抄読し、クリティークをする。クリティークを通して研究力の基礎を築くとともに、対象の理解や看護実践に関する多角的な視点を広げ、看護の質の向上につなげる。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(4 片田 裕子／1回) 成人期の慢性疾患をもつ、または終末期にある人や家族の看護に関連した文献のクリティークを行い、理解を深め、学生の関心のある看護課題や看護援助を討議し、研究課題を明確化する。</p> <p>(3 榎子 嘉美／1回) 成人期の急性期、周術期、クリティカルケアにおける看護に関する文献のクリティークを行い理解を深め、学生の関心のある看護課題や看護援助を討議し、研究課題を明確化する。</p> <p>(4 片田 裕子・11 比嘉 肖江／5回) (共同) 成人看護学領域で慢性期疾患をもつ、または終末期にある人や家族の看護に関する研究論文のクリティークを行い、研究の動向を把握するとともに研究方法の理解を深める。</p> <p>(3 榎子 嘉美・10 城戸口 親史・15 河相 てる美／5回) (共同) 成人期の急性期、周術期、クリティカルケアにおける感染看護、災害看護に関する文献のクリティークを行い、研究の動向を把握するとともに研究方法の理解を深める。</p> <p>(4 片田 裕子・3 榎子 嘉美・11 比嘉 肖江・10 城戸口 親史・15 河相 てる美／3回) (共同) 成人期におけるクリティカルケアを含めた看護実践に関する文献のクリティークを行い、研究の動向を把握するとともに研究方法の理解を深める。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
		成人看護学特論演習Ⅱ	<p>「成人看護学特論」「成人看護学特論演習Ⅰ」において学んだ知識・理論や方法論を基盤に、健康障害をもちながら生活する成人期の人々と家族の環境や医療体制等の背景から、看護課題と看護支援について、研究や実践の発表、ディスカッションを通して考察し、探究する。</p> <p>(共同／全15回) (11 比嘉 肖江・10 城戸口 親史・15 河相 てる美・26 寺内 英真・35 濱野 初恵)</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要		
(看護学研究科看護学専攻)		
看護専門科目	老年精神看護学	<p>老年精神看護学特論</p> <p>国内外の老年精神看護学の発展経緯や研究の動向を把握し、老年看護学と精神看護学に共通する理論や看護実践について学び、老年期にある人の特徴や精神障がいのある高齢者に対する社会情勢に応じた看護支援の重要性と必要性について教授する。また、老年精神看護学の基盤となる概念と理論、複雑で多様な健康レベルの人々の地域での生活を可能にするために必要な保健医療福祉の諸制度やその活用方法、退院支援・退院調整による在宅移行の可能性を検討するための多職種連携における看護の役割を意識しながら患者とその家族へのより良い看護支援への考察を深めることによって、興味関心のある研究課題を探究する。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(② 張 平平／5回) 国内外の老年看護学の発展経緯と研究の動向、看護実践に活かす看護理論を学修し、ディスカッションを行う。諸外国との比較を通して日本における老年看護学の特徴への理解を深めると同時に社会情勢に応じた看護支援のあり方を考える。</p> <p>(③ 田中 いずみ／4回) エリクソンの生涯発達理論について、老年期の第8段階「統合」と第9段階「老年的超越」に焦点をあてて教授する。また、ペプロウ対人関係理論について、老年期の事例を通して学修し、ディスカッションにより理解を深め、理論の活用を検討する。さらに、認知症患者が精神科に入院するという日本独特の現状や、身体拘束等についてディスカッションし、課題に対する対応策を探究する。</p> <p>(⑤ 木谷 尚美／5回) 複雑で多様な健康レベルの人々の地域での生活を可能にするために必要な高齢者が活用できる保健医療福祉の諸制度やその活用方法を理解し、とりわけ、地域包括ケアシステム構築が推進される中、退院支援・退院調整による在宅移行の可能性を検討するための多職種連携における看護の役割を明確にししながら患者とその家族へのより良い看護支援への考察を深める。</p> <p>(② 張 平平・③ 田中 いずみ・⑤ 木谷 尚美／1回) (共同) 今までの講義内容をもとに、老年精神看護学に関する課題と改善策を討議する。</p>
		オムニバス方式、共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科看護学専攻)				
看護専門科目	老年精神看護学	老年精神看護学 特論演習Ⅰ	<p>老年精神看護学領域および関連領域の先進的研究や、今日的課題を中心に、国内外の優れた研究内容やその動向、そして現時点での課題と解決策について文献などを用いて探究する。</p> <p>具体的には、国内外の関連論文の抄読とそれを基にした論文の読解や領域の特色ある研究方法等について探究する。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(③ 田中 いずみ／2回) 老年期の精神障がい者とその家族及び支援する看護職者に関する文献のクリティークについて教授する。</p> <p>(② 張 平平／2回) 老年看護学領域の今日的課題や研究テーマ等について文献レビューの意義とクリティークについて教授する。</p> <p>(⑤ 木谷 尚美／2回) 認知症看護に関する文献クリティークについて教授する。</p> <p>(⑧ 青柳 寿弥／2回) 介護家族への看護に関する文献クリティークについて教授する。</p> <p>(18 伊藤 裕佳／2回) 長期療養者への支援に関する文献クリティークについて教授する。</p> <p>(③ 田中 いずみ・② 張 平平・⑤ 木谷 尚美・⑧ 青柳 寿弥・18 伊藤 裕佳／5回) (共同) 興味関心のある老年精神看護学領域および関連領域の先進的研究に関する文献を用いて、クリティークした内容のプレゼンテーションを行う。また、参加者全員でディスカッションを行い文献で提示された内容から課題と解決策について探究する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
		老年精神看護学 特論演習Ⅱ	<p>「老年精神看護学特論」「老年精神看護学特論演習Ⅰ」において学んだ知識・理論や方法論を基盤に、学修者個人又はグループで高齢者全般および鬱や、せん妄等の精神障がいのある高齢者を題材とした演習課題を設定する。その課題を解決するための論文クリティーク、演習計画書の作成、フィールド演習、グループ討議、発表、全体討議を行う。その過程を通して、理論と実践を融合できる能力を修得する。</p> <p>(共同) (⑤ 木谷 尚美・27 川口 寛介・⑩ 遠田 大輔)</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要		
(看護学研究科看護学専攻)		
看護専門科目	母子看護学	<p>女性のライフサイクル全般および周産期における母子とその家族の健康課題・子どもの成長発達に応じた子どもとその家族の健康課題を理解し、理論やガイドラインなどエビデンスに基づいた支援のあり方を思考する。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(6 松井 弘美／6回) 家族、母子関係、母親役割の理論やガイドラインに基づき、周産期における母親についての理解と支援のあり方についての思考を深める。 また、虐待・暴力など女性の健康に関連した概念と健康行動理論・健康モデルを学び、支援のあり方についての思考を深める。</p> <p>(21 村田 美代子／2回) empowerment、family-centered-careなど、女性の健康に関連する概念を学び、支援のあり方についての思考を深める。</p> <p>(9 寺井 孝弘／6回) 小児の成長発達と支援に関する理論、小児の成長発達に影響する虐待に関連した概念を学び、支援のあり方についての思考を深める。</p> <p>(6 松井 弘美・21 村田 美代子・ 9 寺井 孝弘／1回) (共同) 科目目的に関するグループワーク及び科目のまとめを行う。</p>
	母子看護学特論	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科看護学専攻)				
看護専門科目	母子看護学	母子看護学特論演習 I	<p>女性のライフサイクル全般および母子とその家族に関して、興味のある文献のクリティークを行い、研究の理論的基盤や研究デザイン、目的に応じた研究方法について学ぶ。文献の抄読を通して、看護の専門性を踏まえた看護実践に寄与する看護研究についての学びを深める。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(6 松井 弘美／3回) アウトカムモデルとサブストラクションについて学び、文献クリティークについて理解を深める。 母子関係に関する質的研究のクリティークを行い、母子関係に関する質的研究方法について理解を深める。</p> <p>(21 村田 美代子／3回) ウイメンズヘルスに関する研究のクリティークを行い、ウイメンズヘルスに関する研究方法について理解を深める。</p> <p>(9 寺井 孝弘／4回) 子どもと家族に関する研究のクリティークを行い、子どもと家族に関する研究方法について理解を深める。</p> <p>(20 小林 絵里子／4回) 母子関係に関する量的研究のクリティークを行い、母子関係に関する量的研究方法について理解を深める。</p> <p>(6 松井 弘美・21 村田 美代子・ 9 寺井 孝弘・20 小林 絵里子／1回) (共同) 科目目的に関するグループワーク及び科目のまとめを行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
		母子看護学特論演習 II	<p>家庭・地域・学校・職場・病院など、多様な場における母性看護学および小児看護学の現状と課題を探究し、臨床における実践能力を養う。これまでの自身の看護実践について、各特論科目や演習科目で学修した理論や研究成果をもって検討する。 特に出生前診断や不妊治療を含むリプロダクティブヘルス・リプロダクティブライツ、産後うつを中心とした周産期における諸問題、困難や障がいを抱える子どもの成長・発達と愛着形成について検討し、自身の看護実践につなげていく。</p> <p>(共同) (6 松井 弘美・21 村田 美代子・ 28 高木 園美・29 若瀬 淳子・32 北島 友香)</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科看護学専攻)				
看護専門科目	地域在宅看護学	地域在宅看護学特論	<p>地域を基盤にして行われる公衆衛生看護、在宅看護の対象となる個人・家族および人々の健康状態とその背景であるコミュニティをより専門的に理解し、実践の理論的根拠を学ぶ。そして、課題解決についての地域における看護の多様なアプローチについて探究する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 佐伯 和子／5回) 現代のコミュニティとアセスメントをテーマに、地域社会とコミュニティ、地域共生社会と包摂（ソーシャルインクルージョン）、システム論とコミュニティ、コミュニティ・アセスメントモデルについて講義とディスカッションを行う。コミュニティ・アセスメントについては学生が実際に実施する。</p> <p>(④ 越田 美穂子／5回) 健康格差社会および公衆衛生看護の人材育成をテーマに、健康格差社会と保健師活動について、公衆衛生看護における人材育成のあり方と実際の課題について講義を行い、演習発表とディスカッションにより学生は理解を深める。</p> <p>(⑦ 河野 由美子／5回) 在宅看護をめぐる社会的課題をテーマに、在宅で生活する療養者と家族の課題と解決へのアプローチとして、多様化する家族の生活と介護負担等、医療や生活に係る意思決定と支援について講義する。また、介護施設で生活する高齢者と介護職の課題と解決へのアプローチでは、介護職の教育体制、離職、虐待防止等と終の棲家としての施設における終末期の支援について講義する。講義は事例検討を交えながら実施する。</p>	オムニバス方式
		地域在宅看護学特論演習 I	<p>地域在宅看護学領域および関連領域の先進的研究や、今日的課題を中心に、国内外の優れた研究内容やその動向、そして現時点での課題と解決策について文献等を用いて探究する。</p> <p>具体的には、国内外の関連論文の抄読とそれを基にした院生や教員の論文の読解や領域の特色ある研究方法等について探究する。</p> <p>(共同) (1 佐伯 和子・④ 越田 美穂子・ ⑦ 河野 由美子・22 清水 暢子)</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻)			
看護専門科目	地域在宅看護学	<p>地域在宅看護学特論演習Ⅱ</p> <p>地域の多様な場で実践している地域在宅看護における現状と課題を探究し、地域在宅看護の実践能力を養う。特に、外来から入院・退院までの入退院支援、要介護状態や医療的ケアを受ける療養者と家族支援、地域住民の生活支援等について、各専門職とのディスカッションやフィールドワークを通して、理論と実践を融合できる能力を修得する。</p> <p>具体的には、入退院に関する制度の課題、地域で生活する要介護状態、障害者、医療的ケアを必要とする生活者と家族への支援方法について検討する。さらに、地域で生活で支援を必要とする生活者への多職種連携・協働の実践方法について検討する。</p> <p>(共同) (⑦ 河野 由美子・31 山崎 智可・36 中堀 伸枝・⑪ 大西 竜太・⑫ 北林 正子)</p>	共同
高度実践看護科目（老年看護）	老年看護学原論	<p>日本と諸外国の老年看護学の発展経緯、研究の動向及び、加齢理論と看護学の諸理論を学び、高度看護実践を遂行するための論理的思考力を養う。また、健康問題のある高齢者とその家族への看護実践の検討により、老年看護における倫理的問題への感受性を強化する。特に、老年看護実践における倫理的諸問題に対応するための知識及びその活用などについて学び、専門看護師の役割について探究する。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(② 張 平平／4回) 日本及び諸外国の老年看護の発展経緯と研究の動向、加齢理論、高齢者とその家族への看護に適応できる看護理論について教授する。</p> <p>(⑤ 木谷 尚美／2回) 治療選択における高齢者と家族の意思決定および、人生最終段階における高齢者と家族の意思決定に関する課題と支援方法について討議する。</p> <p>(⑧ 青柳 寿弥／4回) 高齢者への権利擁護と健康増進支援、および、高齢者と家族への看護支援における倫理的課題と改善策について討議する。</p> <p>(18 伊藤 裕佳／4回) 医療機関から在宅または介護保険施設への移行支援の課題について検討し、医療保険福祉における連携調整及び専門看護師の役割について討議する。</p> <p>(② 張 平平・⑤ 木谷 尚美・⑧ 青柳 寿弥・18 伊藤 裕佳／1回) (共同) 学んだことをもとに、臨床現場の状況、または自分の経験に照らし合わせて、高齢者とその家族への高度看護実践の課題を討議し、課題解決に向けた考察を深めるとともに老人看護専門看護師としての役割を探究する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻)			
<p>高度実践看護科目（老年看護）</p>	<p>高齢者アセスメント論</p>	<p>複雑な健康課題をもつ高齢者をアセスメントする基盤となる、身体的・心理的・社会的機能の変化と生活への影響について、最新の知識と評価方法を学ぶ。さらに、アセスメント結果をキュアと統合し看護実践に反映する方法を検討し、健康課題をもつ高齢者の強みや主体性を引き出す看護について考察する。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(5 木谷 尚美／4回) 高齢者の健康と健康生活を支える視点、高齢者の心理・社会機能の評価について検討する。</p> <p>(16 浦井 珠恵／3回) 高齢者の身体的機能（ADL、言語機能、転倒・バランス、感覚機能、皮膚、栄養状態）の評価について検討する。</p> <p>(27 川口 寛介／3回) 高齢者総合機能評価、高齢者の身体機能（排泄、睡眠）の評価について検討する。</p> <p>(5 木谷 尚美・16 浦井 珠恵・27 川口 寛介／5回)（共同） 高齢者に関する包括的評価方法の事例への展開について討議する。評価結果を専門的看護実践に活用する方法について討議する。</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

授 業 科 目 の 概 要		
(看護学研究科看護学専攻)		
高度実践看護科目 （老年看護）	老年医学特論	<p> 老年期に発生頻度の高い疾患や症候群と検査・治療（薬物療法を含む）について、各分野の専門医より最新のエビデンスおよび臨床実践に基づく知識を学ぶ。複雑な健康課題をもつ高齢者の疾患の治療・療養を支援するための専門的知識に基づいたケアとキュアの統合による高度な看護判断ができる能力を養う。 </p> <p> (オムニバス方式・共同（一部）／全15回) </p> <p> (27 川口 寛介／1回) 治療を受ける高齢者のせん妄予防とケア方法、および身体拘束を行わない看護について検討する。 </p> <p> (69 東川 俊寛／1回) 高齢者の薬物療法の特徴と注意点について学び、高齢者のポリファーマシーを回避するための具体的対策について討議を行う。 </p> <p> (70 富岳 亮／2回) 認知症やパーキンソン病等の病態・検査・治療・薬物療法について学び、症例検討を行う。 </p> <p> (71 井上 博／2回) 高血圧・動脈硬化・心不全等の病態・検査・治療・薬物療法について学び、症例検討を行う。 </p> <p> (72 保田 賢司／2回) 前立腺がんの病態・検査・診断・治療および手術療法・化学療法・放射線療法等のがん治療について学び、症例検討を行う。 </p> <p> (73 三浦 太郎／3回) 高齢者診療の基本と老年症候群について学ぶ。高齢者の緩和医療と意思決定支援について学び、症例検討を行う。 </p> <p> (74 木林 勉／2回) 急性期・回復期・生活期（維持期）における高齢者のリハビリテーション、および予防医学としての高齢者リハビリテーションの特徴と実際について学び、高齢者の特性を踏まえたリハビリテーション看護を検討する。 </p> <p> (② 張 平平・27 川口 寛介／2回)（共同） 老年医学および各分野の講義で得た専門的知識を基にケアとキュアの統合についてディスカッションを展開し、高齢者への高度看護実践の在り方を考える。 </p>

授 業 科 目 の 概 要		
(看護学研究科看護学専攻)		
<p>高度実践看護科目 (老年看護)</p>	<p>高齢者高度看護実践論</p>	<p>高齢者に多い健康課題と倫理的課題を学び、倫理的思考を土台にした高齢者と家族に対する高度な看護実践能力を養う。高齢者をめぐる複雑で多様な家族形態や家族機能の変化、介護機能の脆弱等の背景を踏まえ、諸理論を基盤とした高齢者と家族への看護実践方法に関する理解を深める。そのうえで、健康課題を持つ高齢者と家族に対する臨床判断プロセス、および倫理的課題解決に向けたアプローチ方法を探究する。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回)</p> <p>(⑤ 木谷 尚美／1回) 高齢者の意思を尊重した看護実践方法について文献を用いて検討する。</p> <p>(⑦ 河野 由美子／1回) 家族看護理論について学ぶ。それをもとに高齢者とその家族に生じやすい倫理的課題について検討する。</p> <p>(11 比嘉 肖江／2回) 終末期の高齢者とその家族への看護実践の方法について検討する。</p> <p>(⑧ 青柳 寿弥／2回) 急性期治療を受ける高齢者とその家族への看護実践方法を検討する。</p> <p>(27 川口 寛介／2回) がんの高齢者とその家族への看護実践方法を検討する。</p> <p>(75 長瀬 佐知子／2回) 心不全を有する高齢者とその家族への看護実践方法を検討する。</p> <p>(76 中村 美穂／2回) 胃ろうを造設した高齢者とその家族への看護実践方法を検討する。</p> <p>(77 高田 和加子／2回) 摂食・嚥下障害のある高齢者とその家族への看護実践方法を検討する。</p> <p>(11 比嘉 肖江・⑤ 木谷 尚美・⑦ 河野 由美子・⑧ 青柳 寿弥・27 川口 寛介／1回) (共同) 複雑な健康課題をもつ高齢者とその家族への看護における老人看護専門看護師の専門性について検討する。</p>

授 業 科 目 の 概 要		
(看護学研究科看護学専攻)		
<p>高度実践看護科目（老年看護）</p>	<p>高齢者ケアシステム論</p>	<p>国内外の高齢者に関する保健医療福祉制度、政策の変遷と現状について理解し、高齢者に必要とされる支援システムの組織化と活用について提言できる能力を養う。また、高齢者の治療、療養、健康維持・増進に関わる支援システムとその構築、活用の実際を理解し、さらに、高齢者ケアシステムにかかわる老人看護専門看護師の実践知について学び、高度看護実践への制度政策を応用する能力を培う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(② 張 平平／3回) 中国における高齢者関連制度や、在宅療養高齢者とその家族への支援システム及び、支援システムにおける課題について理解し、国内外の高齢者ケアシステムの課題解決策を考える。</p> <p>(⑦ 河野 由美子／3回) 日本および海外の高齢者に関する保健医療福祉制度、政策の変遷と現状について理解し日本の課題と展望について考える。高齢者の生活支援に必要とされるサポートシステムの組織化と活用について課題を考える。</p> <p>(18 伊藤 裕佳／3回) 高齢者の医療・ケアにおける質評価と管理、連携協働のためのチームづくり、感染管理システムなどの現状と課題からシステム構築の方法と看護の役割について討議する。</p> <p>(78 桑田 美代子／2回) 老人看護専門看護師として政策に関わるとは、高齢者ケアシステムにおける老人看護専門看護師の活動の実際を理解し、高度看護実践への制度政策を活用する能力を養う。</p> <p>(79 惣万 佳代子／2回) 全国でも先駆的に取り組まれている富山型ディサービスの事例により、地域共生社会における看護の役割を理解すると共に、地域包括ケアシステム構築への討議も行う。</p> <p>(80 森山 治／2回) フィンランドと韓国における高齢者関連制度について教授する。</p>

授 業 科 目 の 概 要		
(看護学研究科看護学専攻)		
<p>高度実践看護科目（老年看護）</p>	<p>高度実践老年看護学演習Ⅰ（慢性期における老年看護）</p>	<p>慢性期治療・ケアの場において、高齢者とその家族に生じる複雑かつ多様な健康問題を理解し、高齢者の力を活かした生活の質の維持・向上に向けた援助方法を学ぶ。また、慢性疾患や障がいをもつ高齢者とその家族へのケアとケアの両方の視点から看護実践方法を検討するとともに、課題解決に向けた専門職連携やスタッフ教育の視点を学び、高度な看護実践能力を養う。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>⑤ 木谷 尚美／1回 加齢変化を踏まえながら、高齢者における慢性疾患・慢性期看護の概念を学ぶ。また、高齢者ケアの質を高めるICFを活かしたケアプロセスを学ぶ。</p> <p>18 伊藤 裕佳／2回 慢性疾患や障がいをもつ高齢者への高度看護実践におけるスタッフ教育の課題解決方法について討議する。</p> <p>24 山本 麻理奈／1回 高齢者の機能維持のために、転倒リスクの高い事例を多角的にアセスメントし、その予防方法について討議する。</p> <p>74 木林 勉／2回 日常生活行動に関連した機能維持のためのリハビリテーションの実際（脳卒中リハビリテーション、心臓リハビリテーション、呼吸器リハビリテーション等）を学び、看護実践への活用方法を討議する。</p> <p>81 榑原 千秋／2回 複雑な健康課題をもつ高齢者の排泄の自立に向けたアセスメントとケア方法についての取り組み事例を学ぶ。また、排泄の自立支援が必要な高齢者への事例検討を行う。</p> <p>82 石原 昌代／2回 慢性疾患や障がいをもつ高齢者が施設で長期療養する上での現状と課題および生活の維持・向上に向けた多職種連携について教授する。</p> <p>⑤ 木谷 尚美・18 伊藤 裕佳・24 山本 麻理奈・27 川口 寛介／5回）（共同） 慢性疾患を有する高齢者（がん、生活習慣病、誤嚥性肺炎、難病）へのケアとケアが統合した看護実践方法について討議する。その上で慢性期における老人看護専門看護師としての役割を討議する。</p>

オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要		
(看護学研究科看護学専攻)		
<p>高度実践看護科目（老年看護）</p>	<p>高度実践老年看護学演習Ⅱ（認知症老年看護）</p>	<p>認知症と認知症ケアに関する最新の知識を学び、認知症高齢者が抱える複合する問題・影響要因を的確に分析、評価するための方法を学ぶ。また、複雑な課題をもつ認知症高齢者とその家族への援助の実際を学び、治療・療養生活の質を高めるための援助方法について検討する。さらに、多様なキュア・ケア環境で生活する認知症高齢者とその家族に対して、多職種で協働できる老人看護専門看護師としての能力を養う。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>⑤ 木谷 尚美／4回 認知症高齢者の生活障がいのとらえ方と非薬物療法を主とした看護実践の方法、意思決定支援の方法について検討する。 また、認知症高齢者の退院支援の現状と課題について学び、多職種と連携・協働しながら行う退院支援のあり方を検討する。</p> <p>⑧ 青柳 寿弥／5回 認知症外来における診療場面を見学し、老人看護専門看護師としての診療場面における役割について検討する。 また、認知症高齢者を介護する家族の抱える課題を踏まえ、事例を用いて、家族介護者の介護負担感の軽減に向けた支援の検討を行う。</p> <p>⑦⑤ 長瀬 佐知子／2回 老人看護専門看護師から、急性期病院に入院する認知症高齢者への看護実践の実際について学ぶ。急性期病院で起こりやすい身体拘束の課題を取り上げ討議する。</p> <p>③ 田中 いずみ・⑤ 木谷 尚美／1回（共同） 認知症に関する諸外国の研究動向を学ぶ。更に精神科に入院するわが国の認知症高齢者の現状と課題を分析・検討する。</p> <p>⑤ 木谷 尚美・⑧ 青柳 寿弥／2回（共同） レビー小体型認知症サポートネットワークに参加し、レビー小体型認知症高齢者とその家族への看護実践方法を検討する。</p> <p>③ 田中 いずみ・⑤ 木谷 尚美・⑧ 青柳 寿弥／1回（共同） 認知症高齢者とその家族が住み慣れた地域で暮らし続けるために必要な老人看護専門看護師としての役割について検討する。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻)			
高度実践看護科目（老年看護）	高度実践老年看護学実習Ⅰ（専門看護師の役割実践）	<p>高齢者の健康問題における医療の実際ならびに老人看護専門看護師としての看護ケアの実際について理解を深め、専門看護師として必要な高度看護実践、調整、倫理調整、相談、教育、研究の能力を養う。また、高齢者の看護ケア実践における倫理的課題について考えを深め、その解決方法について検討する。</p> <p>(共同) (2) 張 平平・⑤ 木谷 尚美・⑧ 青柳 寿弥・ 18 伊藤 裕佳・27 川口 寛介)</p>	共同
	高度実践老年看護学実習Ⅱ（認知症高齢者への看護実践）	<p>複雑な課題をもつ認知症高齢者を包括的にアセスメントし、必要と判断した看護を実践することを通して、認知症高齢者とその家族に対する看護実践能力を養う。また、治療方針の決定や入退院に関わる倫理的課題、療養生活上の権利侵害などの認知症高齢者とその家族が抱える課題を抽出し、その課題解決のために必要な老人看護専門看護師としての調整・倫理調整・相談・教育を実践する能力を養う。さらに、ユマニチュードケア技法を用いて認知症高齢者への高い看護実践力を養う。</p> <p>(共同) (2) 張 平平・⑤ 木谷 尚美・⑧ 青柳 寿弥・ 18 伊藤 裕佳・27 川口 寛介)</p>	共同
	高度実践老年看護学実習Ⅲ（慢性期における老年看護実践）	<p>慢性疾患・障がいにより長期にわたって健康問題に向き合っている高齢者とその家族に対し、疾患の病態生理、診断や治療の過程、高齢者に特有の加齢変化や老年症候群をふまえ、身体的側面、心理的側面、社会的側面を包括的にアセスメントする能力を養う。また、高齢者とその家族との話し合いを通じ、価値観や今後の治療・療養の目標設定、選択における老人看護専門看護師としての能力を修得する。その上で、治療（キュア）と看護（ケア）を融合させ、在宅（施設）を視野に入れた高齢者の強みや主体性を引き出す継続的な看護実践能力を修得する。さらに高齢者のケアを向上させるための教育的関わりや相談、多職種間の調整ができる能力を養う。</p> <p>(共同) (2) 張 平平・⑤ 木谷 尚美・⑧ 青柳 寿弥・ 18 伊藤 裕佳・27 川口 寛介)</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要		
(看護学研究科看護学専攻)		
研究 科目	看護学特別研究 (研究コース)	<p>学生の看護に関する問題意識をもとに研究課題を設定し、研究計画を立案し、データ収集と分析、結果の抽出、考察の過程を体験し、修士論文を作成して発表する。これらの過程を通して、研究能力を培う。</p> <p>(1 佐伯 和子) 公衆衛生看護分野での少子高齢社会におけるヘルスプロモーションに基づく地域づくり、保健師基礎教育・現任教育とキャリア発達などの課題について、学生が自身の研究課題を探究し、研究計画作成から論文作成、公表までを指導する。</p> <p>(① 岡本 恵里) 看護ケア技術や看護倫理について理論的に解明するために、ケア方法やケア評価、倫理的ジレンマや対処行動、教育方法や教育評価などの研究課題を明確にし、研究プロセスを踏まえて主体的に修士論文を作成する。研究計画作成から論文作成、公表までを指導する。</p> <p>(3 栞子 嘉美) 成人期にある急性期、周術期、クリティカルケアを必要とする患者と家族の看護について、学生が主体的に研究課題を明確にし、研究過程を推進・遂行し、修士論文を作成する能力を培う。研究計画作成から論文作成、公表までを指導する。</p> <p>(4 片田 裕子) 成人看護学領域での患者、家族および看護師に関する学生自らの主体的研究課題をもとに全体的視点での看護実践等について一連の研究プロセスを経て、修士論文を作成する。研究計画作成から論文作成、公表までを指導する。</p> <p>(② 張 平平) 高齢者とその家族を対象とする老年看護・家族看護に関する研究課題、多様な実践の場で高齢者を看護・介護する人々に関わる研究課題、老年看護学教育に関する研究課題、文化看護や日中比較研究に関する課題について教授する。研究計画作成から論文作成、公表までを指導する。</p> <p>(6 松井 弘美) 周産期における女性の健康保持・増進を支援するケアおよび自律した助産実践能力を育成する助産基礎教育・現任教育を研究課題としている。研究課題に応じた研究のプロセスを踏まえ、修士論文を作成する。研究計画作成から論文作成、公表までを指導する。</p> <p>(③ 田中 いずみ) 精神看護領域における看護現象の探究や、人々のメンタルヘルスケア及びキャリア発達などの課題について、研究プロセスを踏まえて主体的に修士論文を作成する。研究計画作成から論文作成、公表までを指導する。</p>

授 業 科 目 の 概 要		
(看護学研究科看護学専攻)		
研究 科目	看護学特別研究 (研究コース)	<p>(④ 越田 美穂子) 公衆衛生看護学を基盤に、地域における健康課題の解決や公衆衛生看護学の発展に寄与する研究の知識や分析方法等を指導する。また修士論文作成のための文献検索、研究計画の作成から倫理審査、データ収集・分析、論文執筆、学会発表等の一連の過程について実践を通して指導する。</p> <p>(⑥ 林 静子) 臨床現場で実施している看護技術の科学的根拠の探究や、看護学生や看護師の臨床判断能力の向上に向けた教育方法を開発するため、研究課題を明確にし研究プロセスをふまえて主体的に修士論文を作成する。研究計画作成から論文作成、公表までを指導する。</p> <p>(10 城戸口 親史) 高度な侵襲治療処置が施行される医療の進歩に伴い、生命の危機的状況にある患者の看護はこれまで以上に高度化してきている。そこで、生命の危機的状況にある患者とその家族の身体的・心理的健康課題について学生自らのテーマについて焦点化し指導する。研究計画作成から論文作成、公表までを指導する。</p> <p>(11 比嘉 肖江) 成人看護学領域において人々がもつ文化の多様性と普遍性を探究し、それらを反映した看護方法の内容について、文献検討を経て調査研究の計画書を作成し、計画実施の結果を修士論文としてまとめる全研究過程および公表までを指導する。</p> <p>(⑤ 木谷 尚美) 認知症および軽度認知障害の人の尊厳が守られ、自分の意思が尊重された暮らしを継続していくための課題を取り上げ、その課題を解決するためのケアに関する研究を指導する。研究計画作成から論文作成、公表までを指導する。</p> <p>(⑦ 河野 由美子) 在宅で生活する療養者と家族に関する実践的な支援方法や介護職が抱える諸問題、さらに療養の場の移行支援に関する研究課題を明確にし、研究プロセスを踏まえて修士論文を作成する。研究計画作成から論文作成、公表までを指導する。</p> <p>(14 三善 郁代) 看護ケアにおける感染防止技術や感染予防教育、地域における感染対策に関する各自の研究課題を明確にし、研究プロセスを踏まえて主体的に修士論文を作成する。研究計画作成から論文作成、公表までを指導する。</p> <p>(15 河相 てる美) リハビリテーション看護分野での運動器に注目した転倒予防に関する地域や病院施設での看護実践について、学生が関心をもつ研究課題を明確にし、研究計画から実施、分析、論文作成、公表までを指導する。</p>

授 業 科 目 の 概 要		
(看護学研究科看護学専攻)		
研究 科目	看護学特別研究 (研究コース)	<p>(16 浦井 珠恵) 褥瘡の予防ケアや局所ケア、看護技術に関する研究課題を明確化する。量的研究手法（実験研究・準実験研究）を用いて設定した研究課題を明らかにし、修士論文を作成する。研究計画作成から論文作成、公表までを指導する。</p> <p>(⑧ 青柳 寿弥) 国内外の高齢者看護におけるケア動向を踏まえ、老年期にある認知症の人とその家族の看護について探究のための指導を行う。また、老年期における人々への時代に適応したケア・教材開発について指導する。研究計画作成から論文作成、公表までを指導する。</p> <p>(18 伊藤 裕佳) 長期ケア施設で療養生活を送る高齢者への療養支援、長期ケア施設で高齢者ケアに関わる看護職・介護職へのキャリア支援、長期ケア施設における多職種連携に関する研究課題について指導する。研究計画作成から論文作成、公表までを指導する。</p> <p>(⑨ 寺井 孝弘) 小児看護学に関連する文献のレビュー、研究課題の絞り込み、研究計画書に基づいた研究実施という一連のプロセスを通じて、小児看護における課題や問いを探究するための研究指導を行う。研究計画作成から論文作成、公表までを指導する。</p> <p>(20 小林 絵里子) 母乳育児支援、NICUにおける看護、および周産期におけるシミュレーション教育を研究課題としている。研究課題に関して、文献検討を含めた修士論文としてまとめる研究の全過程を指導する。研究計画作成から論文作成、公表までを指導する。</p> <p>(21 村田 美代子) 母性看護を取り巻く社会の変化をとらえ、マタニティサイクルにある女性の健康や育児支援、家族関係の調整などの課題について、学生が自身の研究課題を探究し研究のプロセスを踏まえて主体的に修士論文を作成する能力を培う。研究計画作成から論文作成、公表までを指導する。</p> <p>(22 清水 暢子) 公衆衛生看護の対象となる個人、家族、小地域を中心に地域比較や国際比較、精神保健や障害者福祉分野でのICT活用法等、国内・外の文献を通して、研究計画の立案、作成、実施する能力を身に付けていく。また、研究実施後の結果の公表技術も同時に高めていく。研究計画作成から論文作成、公表までを指導する。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻)			
研究科目	特定課題研究 (専門看護師 コース)	<p>専門看護師コースの学生が老年看護学の実践や臨床実習における経験の中から特定のテーマを見出し、そのテーマに関する課題を明らかにしたうえで積極的に研究に取り組んで論文（修士論文）にまとめることができる。これらを通して、研究プロセスおよび研究成果を看護実践に還元する意義を理解する。</p> <p>(2) 張 平平 老年看護学領域における認知症高齢者看護、脳卒中高齢者への在宅療養支援、介護家族への支援、地域文化に根ざした元気高齢者のヘルスプロモーション、日中比較研究について指導する。</p> <p>(5) 木谷 尚美 認知症および軽度認知障害の人の尊厳が守られ、自分の意思が尊重された暮らしを継続していくための課題を取り上げ、その課題を解決するためのケアに関する研究を指導する。</p> <p>(8) 青柳 寿弥 国内外の高齢者看護におけるケア動向を踏まえ、老年期にある認知症の人とその家族の看護についての探究のための指導を行う。また、老年期における人々への時代に適応したケア・教材開発について指導する。</p> <p>(18) 伊藤 裕佳 長期ケア施設で療養生活を送る高齢者への療養支援、長期ケア施設で高齢者ケアに関わる看護職・介護職へのキャリア支援、長期ケア施設における多職種連携に関する研究課題について指導する。</p> <p>(27) 川口 寛介 前立腺がん等の高齢がん患者のがんと共生を支援するサバイバーシップケア、身体・心理・社会的側面からの多角的なアプローチによるQOLを高める看護について指導する。また、下部尿路機能障害を有する高齢者の自立を支援する包括的ケアについて指導する。</p>	

公立大学法人富山県立大学 大学院看護学研究科設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
富山県立大学				富山県立大学				
工学部				工学部				
機械システム工学科	60	—	240	機械システム工学科	60	—	240	
知能ロボット工学科	60	—	240	知能ロボット工学科	60	—	240	
電気電子工学科	45	—	180	電気電子工学科	45	—	180	
情報システム工学科	45	—	180	情報システム工学科	45	—	180	
環境・社会基盤工学科	55	—	220	環境・社会基盤工学科	55	—	220	
生物工学科	40	—	160	生物工学科	40	—	160	
医薬品工学科	35	—	140	医薬品工学科	35	—	140	
計	340	—	1,360	計	340	—	1,360	
看護学部				看護学部				
看護学科	120	—	480	看護学科	120	—	480	
学部計	460	—	1,840	学部計	460	—	1,840	
富山県立大学大学院工学研究科 博士前期課程				富山県立大学大学院工学研究科 博士前期課程				
機械システム工学専攻	17	—	34	機械システム工学専攻	17	—	34	
知能ロボット工学専攻	17	—	34	知能ロボット工学専攻	17	—	34	
電子・情報工学専攻	17	—	34	電子・情報工学専攻	17	—	34	
環境・社会基盤工学専攻	12	—	24	環境・社会基盤工学専攻	12	—	24	
生物・医薬品工学専攻	15	—	30	生物・医薬品工学専攻	15	—	30	
計	78	—	156	計	78	—	156	
博士後期課程				博士後期課程				
総合工学専攻	10	—	30	総合工学専攻	10	—	30	
計	10	—	30	計	10	—	30	
大学院計				富山県立大学大学院看護学研究科 修士課程				研究科の設置 (認可申請)
				看護学専攻	10	—	20	
				計	10	—	20	
大学院計	88	—	186	大学院計	98	—	206	